

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		平成29年 7月20日					
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府長岡京市神足暮角1-1		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 株式会社ツバキE&M 代表取締役社長 山本 哲也					
主たる業種	動力伝動装置製造業						
事業者の区分	京都府地球温暖化対策条例施行規則	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号					
計画期間	平成26年4月から平成29年3月まで						
基本方針	環境負荷低減の継続的活動として、CO2排出量の削減、廃棄物の排出量削減に取り組み、CO2排出量については総量及び原単位1%/年の削減を目指す。						
計画を推進するための体制	社長を委員長とする全社環境管理委員会と事業所別の京都工場環境管理審議委員会の下、活動する。 ISO14001認証取得日：2004年12月16日						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (23~25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	4,962.0 トン	5,045.5 トン	4,774.5 トン	5,593.4 トン	3.6 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	5,093.5 トン	4,687.5 トン	4,416.5 トン	5,235.9 トン	-6.2 パーセント	
実績に対する自己評価		H27年度は前年度並みの生産高（前年度比0.04%減）であったが、CO2排出量は前年度比5.3%減となり、CO2削減方策の効果が見られた。また、評価対象となる排出量も大きく目標を超える好結果となった。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量 (生産金額〔千万円〕)	7.39	6.95	6.58	6.10	-11.46 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ( )					パーセント
実績に対する自己評価		H27年度は前年に対し生産高は低かったが、生産性向上策、CO2削減方策の効果が見られ、原単位も大きく目標を超える好結果となった。					
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考	
		107.0 セン	114.0 セン	118.0 セン	122.0 セン		
具体的な取組及び措置の内容	(26)年度	機器の適正な運転管理に努める。 空調機のガスヒューボン化第三期工事(1/2)を実施。					
	(27)年度	機器の適正な運転管理に努める。 工場照明設備等を高効率な設備に順次更新。					
	(28)年度	機器の適正な運転管理に努める。 エアークOMPレッサの更新(3台)による省エネ方策の実施。					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	私有自動車の通勤を許可制としている。(臨時の場合も同等)					
上記の措置を実施した結果に対する自己評価	通勤労働災害発生要因の防止と公共交通機関での通勤を促す効果にある程度期待できる。						
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン			
合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	電力供給量に対応した節電の協力(夏、冬)。廃棄物排出量削減活動の取り組み。ライトダウンキャンペーン参加。アイドリングストップの実施。						
特記事項	第一計画期間の超過削減量を、第二計画期間の温室効果ガス排出量から次のとおり差し引く。						
	超過削減量	第1年度	第2年度	第3年度			
	1,073.5 トン	358.0 トン	358.0 トン	357.5 トン			
平成28年度は国内工場の再編に取り組み、3工場の2工場化を実施する。それに伴い、兵庫工場の生産部門が本社工場に集結する為、本社工場のCO2排出量は増加するが、全社で見れば削減を見込んでいる。							

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。  
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。